

問2 要件定義の適切性に関するシステム監査について

システムを正常に稼働させ、期待どおりの効果を得るためには、システム開発において、業務機能を対象とする機能要件と、性能、セキュリティなどの非機能要件を適切に定義し、システムに組み込むことが必要である。適切な要件定義が行われなかったり、要件が適切にシステムに組み込まれなかったりすると、プロジェクトの失敗及びトラブルが生じる可能性が高くなる。

要件定義を適切に行うためには、システム開発のプロジェクト体制及び開発手法に合わせた要件定義の役割分担、方法、文書化などが必要となる。例えば、システム開発を外部に委託するプロジェクト体制では、要件定義におけるシステム部門と利用部門との役割分担だけでなく、外部委託先との役割分担も明確にしておかなければならない。また、ウォーターフォール型の開発手法を用いる場合と、プロトタイプング手法を用いる場合とでは、要件定義の方法、作成すべき文書などが異なってくる。

システム監査人は、システム開発のプロジェクトの失敗及びトラブルを防止するために、システム開発のプロジェクト体制及び開発手法を踏まえた上で、要件定義の役割分担、方法、文書化状況などが適切かどうかを確認する必要がある。また、要件定義の適切性を監査するための手続は、要件定義工程だけでなく、システム開発の企画、プロジェクト体制の決定、設計、テストの各工程においても実施する必要がある。

あなたの経験と考えに基づいて、設問ア～ウに従って論述せよ。

設問ア あなたが関係したシステム開発の概要について、システム開発のプロジェクト体制及び開発手法、並びに要件定義の役割分担、方法、文書化状況などを含め、800字以内で述べよ。

設問イ 設問アのシステム開発において、適切な要件定義が行われなかったり、要件が適切にシステムに組み込まれなかったりした場合に、生じる可能性のあるプロジェクトの失敗及びトラブルについて、その原因を含めて700字以上1,400字以内で具体的に述べよ。

設問ウ 設問イに関連して、要件定義の適切性について監査を実施する場合、システム開発の企画、プロジェクト体制の決定、要件定義、設計、テストの五つの工程でそれぞれ実施すべき監査手続を700字以上1,400字以内で具体的に述べよ。